

第1号議案

平成16年度事業報告

概 要

平成16年度の（社）全脊連神奈川県支部活動は、会員の皆様のご支援の下、計画通り順調に行われ、これまでになく充実したものとなりました。

支援費制度と介護保険制度との統合問題や、また新しい障害者福祉サービスとして、厚生労働省が提示したグランドデザインなどについては、昨年の支部忘年会を兼ねて「支援費の行方」と題するセミナーで学習することができました。

また、神奈川リハビリテーション病院において、自立生活を長続きさせるためのリハビリ講習会「在宅リハビリ研修会2004」を主催しました。

とくに、昨年度は各協会活動が目覚しく、湘南協会が茅ヶ崎海岸で人気の高い「地引き網とバーベキュー」を開催したほか、横浜協会でも「横浜港サンセットクルーズ」を主催し、いずれも多数の参加者で賑いました。

一方、山崎支部長は、神奈川県障害者施策推進協議会の委員として、「今後の障害者保健福祉施策について」や「在宅重度障害者手当のあり方検討委員会」などに出席するなど神奈川県の障害者福祉施策の審議に障害当事者として参画しました。

しかし、昭和54年に神奈川県支部の設立に参加して以来26年間に亘り神奈川県支部の活動を支えてきました、荻野昭二さんが昨年の9月に亡くなられたことは、大変残念なできごとでした。

荻野さんは、また、平成3年に全国脊損連合会の会長に就任し、連合会組織の改革に取り組む傍ら、支部役員としても神奈川県支部の発展に大きな貢献をしたほか多くの成果をあげました。また、その温和な人柄から支部会員のみならず、多くの人から親しまれていました。

残された私たちは、これからも荻野さんの意志を引き継ぎ、一致協力して障害者福祉の向上に取り組む必要があります。

そんな中、今障害者福祉はこれまでの考え方から大きく変わろうとしています。例えば、車いすなどの補装具やホームヘルパーの派遣制度などは所得のない人は原則として応能負担というのがこれまでの常識とされてきました。しかし、支援費が始まって以来、その予算が度々不足したことから、今度は、応益負担の障害者自立支援法案が今国会で審議されることになりました。目まぐるしく変わる障害者福祉施策に翻弄されることなく、私たちは今後ともより一層支部活動を充実させていく必要があります。

1、『在宅リハビリ研修会 2004』

～身体の声の聴いてみよう～の開催

【共同募金助成事業】

「自立生活を長続きさせるためのリハビリ」を目的に神奈川県支部が在宅リハビリの会「レッツ」と協働して、「リハビリ研修会 2004」を5月7日から9日までの3日間にわたり神奈川リハビリテーション病院で開催しました。

研修会は、ワシントン大学医療センター理学療法士のポール・マリック氏と神奈川リハセンターの作業療法士の玉垣務ほか多数のセラピストを講師にお招きして、脊髄損傷者や頸髄損傷者などの日常生活がより快適に過ごせるように、プライムウォークを付けての歩行訓練やストレッチ、リフティングや家族の介助テクニックなどさまざまなトレーニングの指導を受けるというものです。

研修会1日目のリハビリ講習会では、杉山えり子さん、山岡瑞希さん、白井長興さんの3名が、それぞれ日本で受けたリハビリや、またアメリカで受けたリハビリについての体験談の発表が行われ、70名が参加しました。

また、2日目と3日目の2日間に亘り、ポール・マリック先生の指導を中心にした基本ストレッチと能動的ROMエクササイズ、座位バランス、立位訓練などの実技と実習が行われました。

この研修会の参加者は、脊髄損傷当事者とその家族及び医療、福祉関係者を対象に行われましたが、2日間で100名が参加しました。

障害者、とくに脊髄損傷者が自立して積極的に社会参加していくためには、病院から退院して社会復帰した後も適切な運動やリハビリを続けて行くことが重要です。支部ではこのような会員の皆様の健康管理のためのセミナーや研修会を毎年開催してきました。

2、支援費セミナーの開催

平成15年から障害者福祉サービスは、それまでの措置制度に変わって、利用者本位のサービスの提供を基本として始まった支援費制度は、施行以来予算不足が続き、各障害者団体は関係議員に対して必要な予算確保の陳情を繰り返していました。そんな中、平成16年10月に厚生労働省は新たな障害者福祉のグランドデザインを提示しました。しかも平成17年1月からはじまる通常国会に支援費制度に代わる障害者自立支援法案として上程されることが決まりました。

このような状況から支部では、在宅障害者の生活に直接影響を及ぼす問題であると受け止め、12月24日に支部忘年会を兼ねて「支援費」セミナーを開催しました。

「支援費の行方」と題して開催したセミナーの講師には、社会保障審議会障害者部会委員で全脊連の副理事長でもある大浜眞氏をはじめ、サービス提供事業者の立場から、NPO 清水サポートセンター「そら」の土屋博義理事長、また支援費利用者の立場から当支部会員の北村淑子さんを講師にお招きし、それぞれの立場から講演をして頂き、参加者とともに大きく変わる障害者福祉制度について学習を行いました。

このセミナーで大きな問題となった点は次の3つになりましたが、全脊連の大浜副理事長は、全ての障害者が安心して、今後も可能な限り負担の少ない応益負担制度にする運動を継続していくとの決意を示しました。

【現時点での主な問題点】

- 1、応益負担の問題
- 2、国庫補助交付基準と認定審査会設置の問題
- 3、移動介護の個別給付

3、ピアマネジャー養成研修の受講

「脊髄損傷者の円滑な社会復帰とその後の誇りある社会生活をおくるためには、同じ障害の持ち主である脊髄損傷者による脊髄損傷者のためのピアサポート活動が最も有効である」という趣旨で全脊連本部は、昨年度から3年計画で独立行政法人医療福祉機構の助成を受けて「脊髄損傷者のピアマネジャー養成研修事業」を実施しました。

この事業は、ピアマネジャーがピアサポート活動する上で必要な基礎知識や技量の習得のほか脊髄損傷に伴う併発疾病などの理解、問題点を把握し社会に受け入れられるピアサポート活動ができるようにするための研修で、平成16年から3年間で全国に120名のピアマネジャーを養成する計画ですめられています。

第1回目目のピアマネジャー養成研修会は、2月19～20日の2日間の日程で東京都多摩障害者スポーツセンターにおいて開催されました。

養成研修会では、千葉大学医学部付属病院の吉永勝訓先生、神奈川リハセンターのリハ工学部長の藤井直人先生はじめ、ソーシャルワーカー、社会福祉士、ピアカウンセラーなどの講義が行われたほか、実際に相談を受けた場合を想定した演習が行われました。

この第1回脊髄損傷者のピアマネジャー養成研修会で39名のピアマネジ

ヤーが誕生しましたが、神奈川県支部から参加した赤城喜久代、路川十九夫、町田安男の3名には、2日間の研修を終え、(社)全育連から修了証が交付されました。

4、協会活動

(1) 湘南協会主催の『地引き網とバーベキュー大会』

湘南協会では、4月25日に茅ヶ崎市の南湖海岸において「地引き網とバーベキュー大会」を開催。支部会員を中心に、遠くは群馬県や埼玉県支部からも家族連れで参加するなど36名が海辺に集いました。

車いすの参加者は、大勢のボランティアにより、波打ち際まで進み全員で地引網を引っ張り、シラスや鰯などの大漁に歓声をあげました。地引網のあとは海岸の砂浜で楽しくバーベキューやシラスの天ぷらなどに舌鼓。また、お土産としてシラスをたっぷり頂いて帰りました。(「和」第69号掲載)

(2) 横浜協会主催の「横浜港サンセットクルーズ」

山下公園の乗船場から出航する、オシャレで豪華な遊覧船「マリンルージュ」で食事をしながら90分間で夕暮れの横浜港を一周するサンセットクルーズを心行くまで楽しむ企画が、はじめて横浜協会によって10月22日に実現しました。

バリアフリーになっている船内やターミナルは、すでに横浜協会でも調査済みでもありましたが当日は、天候に恵まれ文字通りロマンチックなサンセットクルーズとなりました。また、会費も4千円と手ごろな安さということもあり、40名限定のところボランティア2名を含め49名もの参加者がありました。

次回も企画してもらいたいとの声も多数あり、横浜協会では今後検討することとしています。(「和」第70号掲載)

5、会報「やわらぎ」の発行

平成16年度の支部会報「やわらぎ」の発行は、第68号(支部総会議案書)第69号と第70号の計3回発行しました。いずれも支部活動の行事などを中心にした記事で、第69号では、湘南協会の地引き網とBBQの内容や第26回支部総会開催の記事、また、地下鉄みなとみらい線の取材記事や介助犬関係の投稿記事を掲載しました。また、第70号では、横浜協会のサンセットクルーズや駅のバリアフリー状況を調査した取材記事を掲載したほか、故荻野前会長の悲しい追悼記事も掲載しました。

やわらぎ第68号.....2004年5月13日発行

やわらぎ第69号.....2004年7月31日発行

やわらぎ第70号.....2005年1月 9日発行

6、平成16年度支部総会の開催

平成16年度の支部活動計画や予算を決める、第26回支部総会は6月13日にヒルトン小田原リゾート&スパで開催しました。この総会には、支部会員ら17名が出席したほか家族ら4名が参加しました。

総会は平成15年度活動報告が行われ、第2回全国総会横浜大会を全脊連本部と共催したことをはじめ、県内の旅客船のバリアフリー調査活動、盲腸ポートの医療セミナーなどが報告されたほか、平成17年度の活動計画では、在宅リハビリ研修会 2004 の開催など16項目にわたる平成17年度の事業計画とその予算案が提案されいづれも了承されました。

また、総会の定足数は下記のように79名のところ、委任状の提出と総会出席者数の合計が85名となり今総会は成立しました。

(資格審査結果)	支部会員数	平成16年4月1日現在156名
	会則第10条2項による総会成立定足数	79名
	総会出席者	17名
	委任状提出者	71名
	合 計	88名

7、定例役員会の開催

支部活動や支部運営を維持発展させるための支部役員会は、平成16年度も順調に行われ、第166回から第170回までの5回開催しました。

第166回……………4月18日……………相模原市 けやき会館

第167回……………6月13日……………ヒルトン小田原リゾート&スパ

第168回……………9月20日……………相模原市 けやき会館

第169回……………10月31日……………相模原市けやき会館

第170回……………2月13日……………相模原市 けやき会館

8、全国総会・関東ブロック会議に出席

(社)全脊連の組織は、文字通り全国規模の組織として障害者福祉の向上やバリアフリー運動などの事業を行い、現在、日本の主な障害者団体の一翼を担い活動しています。

(社)全脊連は、毎年全国各地において全国大会とブロック会議を開催して、その地域における障害者福祉の推進やバリアフリーの促進に貢献する一方、全国各支部間における情報交換や障害福祉に関する共通認識を深めるなどの交流を行っています。

一昨年の第2回全国大会は、神奈川県支部が本部と共催して横浜で開催しました。また、今年度は、神奈川県支部が関東ブロック会議の開催を担当

することになっています。

1、第3回全国総会栃木県大会に出席

5月21・22日・23日の3日間にわたり栃木県宇都宮産業展示館「マロニエプラザ」において開催され、福田昭夫栃木県知事はじめ国会議員や県議会議員など大勢の参列者がありました。また、全国からは18支部、207名が参加し、神奈川県支部からは山崎支部長ら6名が出席しました。

大会では、「地域で自立した安全な生活ができる社会の確立」など6項目の大会スローが採択されたほか、次年度の第4回全国大会は香川県で開催されることを決め閉会されました。

2、第27回関東ブロック会議千葉県大会に出席

10月1日・2日の2日間の日程で木更津市の「かずさアカデミアホール」において開催された関東ブロック会議では、関東各支部から50名が出席しました。神奈川県支部からは、山崎支部長はじめ4名が出席しました。

会議では、「支援費と介護保険の統合ではなく、支援費制度の一層の充実」など19項目の要望をまとめ全育連本部に提出しました。

また、翌日、場所を公園運動場に変えて行われた、関東ブロックスポーツ交流会のグラウンドゴルフ大会に山崎支部長が参加しました。

3、関東ブロック連絡会議に出席

ブロック会議千葉県大会の下準備のための連絡会議が7月25日、姉ヶ崎アネッサで開催され、支部から赤城女性部長ら2名が出席しました。

9、懇親会・クリスマスパーティーの開催

1、懇親会とボーリング大会

6月13日にヒルトン小田原リゾート&スパで開催した、支部総会の終了後に、ボーリング大会を開催し、12名が参加しました。大会では2ゲームを楽しみました。

ボーリングの後は、会場を宴会場に移し、支部懇親会を開催しました。

参加者は15名でおなじみの仲間とともに楽しいひと時を過ごしました。

2、クリスマスパーティー

今回の日程は、12月24日ということもあり、例年実施している支部忘年会をクリスマスパーティーとしてヒルトン小田原リゾート&スパにおいて支援費セミナーの後に開催しました。東京支部からの参加も加えて24名がクリスマスパーティーを心ゆくまで楽しみました。

10、JAFとニッシン自動車の

無料点検サービスの実施

今回の無料点検サービスもJAFとニッシン自動車工業の協働で10月21日に神奈川リハセンター大駐車場で実施しました。また、今回は会場でトヨタ自動車2台が展示されました。

実費で行うオイル交換やタイヤの点検とベテランが行う丁寧な手動装置の点検修理などのサービスに48台が参加しました。

11、その他の活動

- ①障害者基本法の規定に基づき、今年度より山崎昇支部長は、神奈川県障害者施策推進協議会委員に任命され、障害者施策の審議に参画することになりました。7月28日・1月21日の委員会に出席しました。
- ②山崎支部長は、神奈川県福祉サービス運営適正化委員会委員就任し、2月17日「神奈川県在宅重度障害者等手当てのあり方検討小委員会」に出席しました。
- ③元支部長で全脊連会長を歴任され、9月11日に逝去された荻野昭二氏の葬儀を9月17日に本部と協働して執り行ない、支部役員はじめ大勢の仲間で荻野さんをおみおくりしました。
- ④昨年度も各地で共同募金活動に参加。10月1日、横浜駅西口で4名が参加。10月5日、厚木駅前で5名が参加。10月13日、相模原市役所前で4名が参加しました。
- ⑤NPO 神奈川県障害者自立生活支援センターの主催による障害者自立支援フォーラム「21世紀自分らしく生きよう」が、11月13日に神奈川県社会福祉会館で開催され、新田輝一横浜協会長が基調講演「障害者差別禁止法はなぜ必要か」と題する基調講演を行いました。また、妻屋事務局長も分科会のパネラーとして講演を行いました。
- ⑥日本損害保険協会助成事業として脊髄損傷リハビリ講習会が11月20日、神奈川リハビリテーション病院で開催され、支部から6名が参加しました。「知っておきたい脊髄損傷者の成人病とその予防」と題して、神奈川リハ病院副院長の水口正人先生が講演したほか、リハ工学士の藤井直人先生が「褥創予防用具の特性を知ろう」について講演しました。支部では、この講習会に賛同し後援しました。
- ⑦県社協の第2種・3種合同連絡会が2月17日に神奈川県社会福祉会館で開催され、路川副支部長が出席しました。
- ⑧3月14日、障害者社会参加推進協議会に路川副支部長が出席しました。